

1. 公益充実資金の前年度末明細

公益充実資金の前年度末値を確認します。

前年度末				
各資金の明細		実施時期(年度)※西暦	所要額	残高
博物館建替積立資金	資産	2030	1,798,533,660 円	1,403,082,528 円
パブリックアート設置積立資金	資産	2025	120,000,000 円	93,615,097 円

2. 公益充実資金の本年度末明細

公益充実資金の本年度末値を確認します。

当該事業年度開始日(西暦)	2025/4/1
---------------	----------

本年度末						
前期末残高		取崩額(合計値)	取崩額のうち資産取得分以外	積立額	今期末残高	積立限度額
1,496,697,625 円		50,000,000 円	0 円	59,640,000 円	1,506,337,625 円	1,798,533,660 円
各資金の明細		実施時期(年度)※西暦	所要額	取崩額(個別)	備考	
博物館建替積立資金	資産	2030	1,798,533,660 円	0 円		
パブリックアート設置積立資金	資産	2025	0 円	50,000,000 円		

公益充実資金は、公益目的事業に係る特定費用準備資金（旧規則第18条）及び資産取得資金（旧規則第22条第3項第3号）を結合し、法人の実情や環境変化に応じた柔軟な資金管理が可能となるよう、
使途変更の柔軟性等を高めたものとして創設するものである。
（「公益認定等に関する運用について（公益認定等ガイドライン）」より掲載）

資産	
特定の事業又は資産取得等の名称	博物館建替積立資金
当該活動の内容	博物館建物の経年劣化に対応するための建替の資金である。
計画期間(目的設定～実施)	西暦 2012 年 月 ～ 2030 年 月 月数 (216 月)
所要額の算定方法	現有建物と同等の建物を建替するための工事費であり、令和元年11月時点で見直しして算定した。 当該工事費のうち、建物使用割合(予定)に応じて、公益に99.4%、収益等に0.6%の割合で積立てる。

資産	
特定の事業又は資産取得等の名称	パブリックアート設置積立資金
当該活動の内容	パブリックアートを地下鉄駅構内に設置するための資金である。
計画期間(目的設定～実施)	西暦 2020 年 月 ～ 2025 年 月 月数 (60 月)
所要額の算定方法	青山一丁目駅20,000,000円、銀座駅80,000,000円、霞ヶ関駅20,000,000円のパブリックアートを設置する資金として積み立てた。 必要な額については、過去に取得した資産の実績から算定した。 設置時期については青山一丁目駅は令和2(2020)年度、渋谷駅及び虎ノ門ヒルズ駅(霞ヶ関駅から設置場所を変更)については令和5(2023)年度である。銀座駅は、令和6(2024)年度から令和7(2025)年度に変更し取得した。

事業 年度	自	令和6年4月1日	法人コード	A016917
	至	令和7年3月31日	法人名	公益財団法人メトロ文化財団

事業 番号	公	1	資産取得資金の名称 (貸借対照表科目名)			博物館建替積立資金				
対象となる資産の名称			博物館建物・設備(公益目的事業に関する部分)							
当該資産の目的			博物館建物の経年劣化に対応するための建替の資金である。							
計画期間(事業年度)			平成	24	年度 ～	令和	12	年度 (19 年間)		
資産取得等予定時期			令和13年度							
資産の取得等に必要な額の 算定方法			現有建物と同等の建物を建替する工事費1,809,390,000円(令和元年11月時点工事費見直し)を耐用年数(45年)経過後の建替を行うまで積立てることとし、前年度(令和5年度)までに、1,525,204,306円積立てている。 当年度(令和6年度)は、40,000,000円を積み立てた。 次年度(令和7年度)以後は、毎年60,000,000円を積み立てる。 なお、建物の使用割合(予定)に応じて、公益に99.4%、収益等に0.6%の割合で積立てる。 また、取崩額欄には、債券評価損額を記載した。							
資産全体に占める公益目的 事業に使用する割合(%)※1 (共用財産の場合のみ)			99.4 %	資産全体に占める 公益目的事業に 使用する割合の説明 (共用財産の場合のみ)			基準:面積割 総面積 3,535平方メートル(予定) 公益目的事業使用面積 3,514平方メートル(予定)			
当該事業年度の目的外取崩し (当該事業年度に取崩しを 行った場合のみ)			なし							

※1 資産の区分が可能な場合には資産の配賦割合を、物理的な特定が困難で一の資産とした場合には使用割合を記載してください。

1. 控除対象財産における資産取得資金の計算

【当年度後3年間の計画】(経過年度は実測値を記載)

年度	利益の※2 繰入割合	積立額	取崩額	資産取得資金の額 (累計)	年度末の積立限度額
3 3年度前		19,880,000 円	45,708,294 円	1,620,228,162 円	1,798,533,660 円
4 前々年度		31,692,393 円	112,837,191 円	1,539,083,364 円	1,798,533,660 円
5 前年度		29,820,000 円	52,850,284 円	1,516,053,080 円	1,798,533,660 円
6 当年度	50%	39,760,000 円	109,115,455 円	1,446,697,625 円	1,798,533,660 円
7 次年度		59,640,000 円	円	1,506,337,625 円	1,798,533,660 円
8 次々年度		59,640,000 円	円	1,565,977,625 円	1,798,533,660 円
9 3年度後		59,640,000 円	円	1,625,617,625 円	1,798,533,660 円

※2 当該年度の収益事業等の利益の繰入割合を選択してください。

事業 年度	自	令和6年4月1日	法人コード	A016917
	至	令和7年3月31日	法人名	公益財団法人メトロ文化財団

事業 番号	公	2	資産取得資金の名称 (貸借対照表科目名)			パブリックアート設置積立資金		
対象となる資産の名称			構築物					
当該資産の目的			パブリックアートを地下鉄駅構内に設置するための資金である。					
計画期間(事業年度)			令和	2	年度 ～	令和	7	年度 (6 年間)
資産取得等予定時期			令和2年度～令和7年度					
資産の取得等に必要な額の 算定方法			青山一丁目駅20,000,000円、銀座駅80,000,000円、霞ヶ関駅20,000,000円のパブリックアートを設置する資金として積み立てた。 必要な額については、過去に取得した資産の実績から算定した。 設置時期については、青山一丁目駅は令和2年度、渋谷駅及び虎ノ門ヒルズ駅(霞ヶ関駅から設定場所を変更)は令和5年度である。銀座駅は令和6年度から令和7年度に変更し取得予定である。					
資産全体に占める公益目的 事業に使用する割合(%)※1 (共用財産の場合のみ)			%	資産全体に占める 公益目的事業に 使用する割合の説明 (共用財産の場合のみ)				
当該事業年度の目的外取崩し (当該事業年度に取崩しを 行った場合のみ)								

※1 資産の区分が可能な場合には資産の配賦割合を、物理的な特定が困難で一の資産とした場合には使用割合を記載してください。

1. 控除対象財産における資産取得資金の計算

【当年度後3年間の計画】(経過年度は実測値を記載)

年度	利益の 繰入割合	※2	積立額	取崩額	資産取得資金の額 (累計)	年度末の積立限度額
3 3年度前			円	円	100,000,000 円	120,000,000 円
4 前々年度			円	円	100,000,000 円	120,000,000 円
5 前年度			円	50,000,000 円	50,000,000 円	120,000,000 円
6 当年度	50%		円	円	50,000,000 円	120,000,000 円
7 次年度			円	50,000,000 円	0 円	120,000,000 円
8 次々年度			円	円	0 円	円
9 3年度後			円	円	0 円	円

※2 当該年度の収益事業等の利益の繰入割合を選択してください。